

天敵製剤スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響期間

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

天敵スワルスキーカブリダニ放飼後に散布した薬剤の影響については、普及に移す技術第84号、85号、87号（各参考資料）で示した。今回、数種粒剤と散布剤について、それらの処理または散布後に、スワルスキーカブリダニに対する悪影響がどの程度残るかを評価したので、本天敵のさらなる普及推進に当たっての参考資料とする。

2 参考資料

- 1) スワルスキーカブリダニに対して各粒剤の悪影響が残る期間は、アセフェート（商品名：オルトラン粒剤）で少なくとも処理後35日間、ベンフラカルブ（オンコル粒剤5）で21日間、ホスチアゼート（ネマトリンエース粒剤）、イミシアホス（ネマキック粒剤）、カルボスルファン（アドバンテージ粒剤）、ジノテフラン（スタークル粒剤）で7日間、イミダクロプリド（アドマイヤー1粒剤）、アセタミプリド（モスピラン粒剤）、ニテンピラム（ベストガード粒剤）、チアメトキサム（アクタラ粒剤5）、クロチアニジン（ダントツ粒剤）で7日間未満である（図1）。
- 2) スワルスキーカブリダニに対して各散布剤の悪影響が残る期間は、スピネトラム（ディアナSC）で散布後33日間以上、トルフェンピラド（ハチハチ乳剤）で少なくとも29日間、マンゼブ（ジマンダイセン水和剤）で22日間、エトフェンプロックス（トレボン乳剤）、スピノサド（スピノエース顆粒水和剤）、エマメクチン安息香酸塩（アフーム乳剤）で21日間、ポリカーバメート（ビスダイセン水和剤）、ポリオキシシン（ポリオキシシンAL水和剤）で15日間、ビフェナゼート（マイトコーネフロアブル）、ミルベメクチン（コロマイト水和剤）で4日間、アセタミプリド（モスピラン水溶剤）、ノバルロン（カウンター乳剤）で4日間未満である（図2、3）。

3 利活用の留意点

- 1) 薬剤を処理した後にスワルスキーカブリダニを放飼する場合、各薬剤の影響期間を過ぎてから行う。
- 2) 試験はナス圃場またはポット植えのパプリカで実施したが、他の作物で薬剤の影響期間が異なるかどうかは不明である。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

農作物病害虫防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験 平成22, 23年度

2) 参考データ

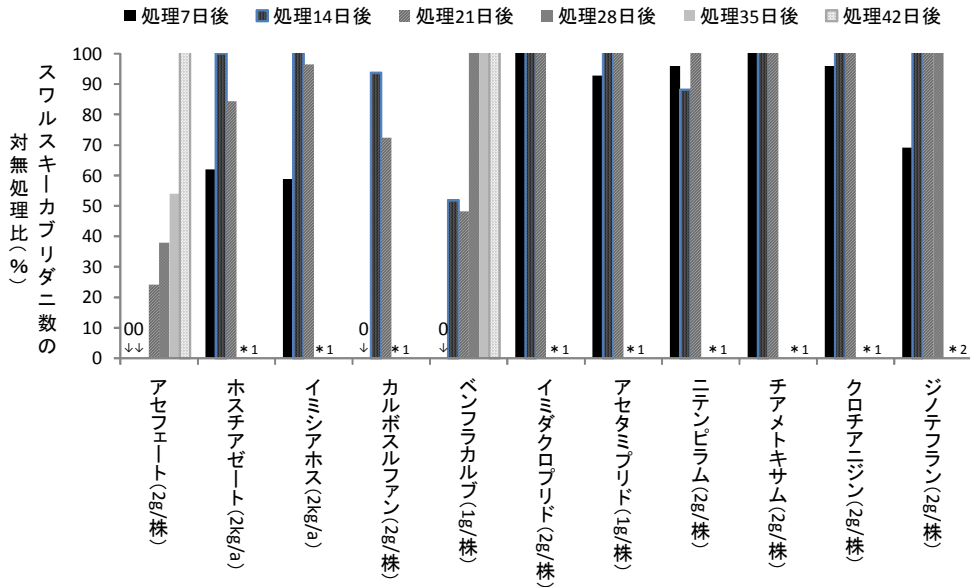


図1 スワルスキーカブリダニに対する各粒剤の影響期間(平成23年, ポット植えパプリカ)
各粒剤処理(6月14日)後, スワルスキーカブリダニを定期的に放飼(10頭/株), 数値は各放飼時期から6日後のスワルスキーカブリダニ数の対無処理比を示す(以下の図も同じ)。
各薬剤につき3株供試(30頭), *1: 処理28日後以降調査なし, *2: 処理35日後以降調査なし

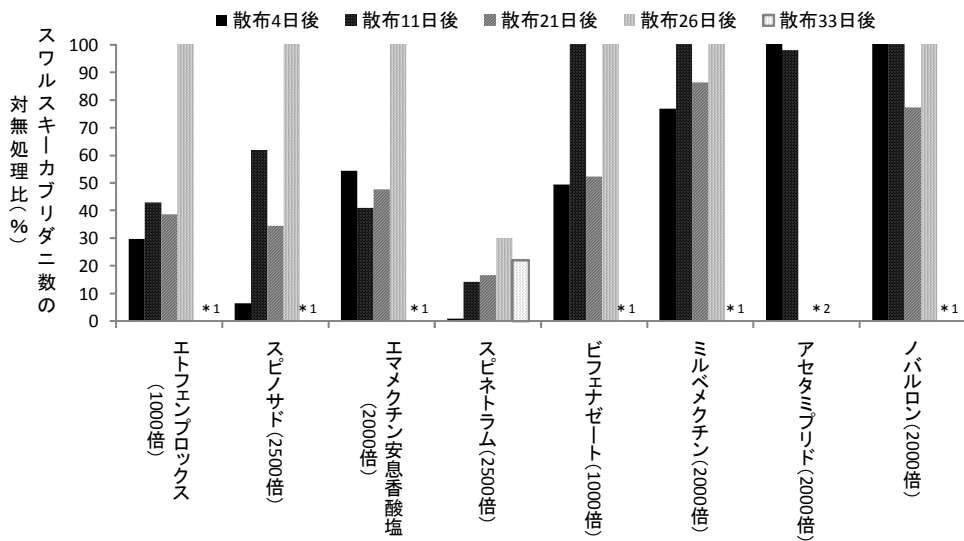


図2 スワルスキーカブリダニに対する各散布剤の影響期間(平成23年, ポット植えパプリカ)
各薬剤散布: 10月14日, 各薬剤につき4株供試, *1: 散布33日後の調査なし, *2: 散布21日後以降調査なし

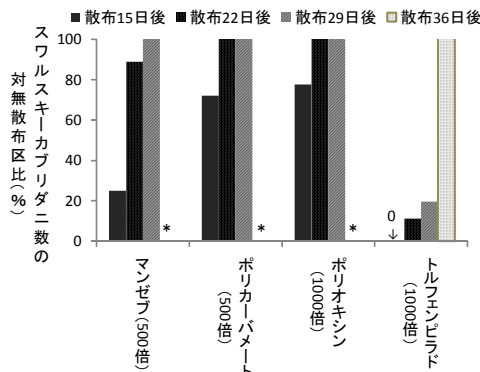


図3 スワルスキーカブリダニに対する各散布剤の影響期間(平成22年, ナス圃場)
各薬剤散布: 9月16日, 各薬剤につき6株供試, *1: 散布36日後の調査なし

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) 天敵製剤スワルスキーカブリダニ密度に対する数種薬剤の影響 (第84号参考資料)

b) 天敵製剤スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響 (追補) (第85号参考資料)

c) 天敵製剤スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響 (追補) (第87号参考資料)

b その他 第56回日本応用動物昆虫学会大会発表予定

4) 共同研究機関 なし